



JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	竹村 ゆかり	学校名	長野県 長野高等学校
担当教科等	地理 B	対象学年 (人数)	2年文系講座 (74名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	2019年9～10月 (3時間)		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：地理B		
2. 単元(活動)名：現代世界と日本		
3. 授業テーマ (タイトル) と単元目標 授業テーマ：「SDGsで考えるザンビアと日本」 単元目標：現代世界が抱える諸課題をSDGsという観点からとらえ、その諸課題が日本や身近な社会にも存在することを理解し、解決策を模索する思考力を養う。 関連する学習指導要領上の目標：現代世界における日本の国土の特色について多面的・多角的に考察し、我が国が抱える地理的な諸課題を探究する活動を通して、その解決の方向性や将来の国土の在り方などについて展望させる。		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	産業構造と発展、広がる貧富の格差などザンビアの実情と日本が抱える課題について、関連づけながら理解することができる。
	②思考力、判断力、表現力等	教科書の知識や資料の読み取りを通して、解決すべき課題について考察し、自身の考えを明確に他者に伝えることができる。
	③学びに向かう力、人間性等	現代世界や日本が抱える課題を身近な社会や自分自身にも関わることとして捉え、意欲的に学ぶことができる。
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 現行の学習指導要領において、地理Bの目標は「国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」ことにあると示されている。「現代世界と日本」という単元において、ザンビアの諸課題について学び、そこから見えてくる日本の諸課題について考察することは、上記目標を達成するうえで有意義であると考えた。 【単元の意義】 学習指導要領では、「日本が抱える地理的な諸課題を生徒自ら見いださせることを通して、その解決と望ましい国土の在り方を実現するためにどのような取組が必要であるかを考えさせること」を「現代世界と日本」の主なねらいとしている。ジクソー法など協働学習を通して生徒自らが考察したザンビアの課題に対する解決策は、日本が抱える課題の解決策にも通じるものである。 【児童/生徒観】 本校は2018年度まで文科省スーパーグローバルハイスクール (SGH) の指定を受け、2019年度からは新規事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業 (グローバル型)」の指定を受け、校内では探究活動が行われている。その一環で入学時よりSDGsに関わる課題研究を行っているため、SDGsへの理解も深い。2年次に予定されている台湾への研修旅行では英語での学校交流や課題研究の発表も組み込まれており、異文化に興味を持ち、将来は国際社会での活躍を望む生徒も少ない。学習意欲が高く、協働学習では活発に発言できる生徒が多い。	

		<p>【指導観】</p> <p>SDGsは遠い世界のものではない。日本や身近な社会にも課題が存在する。ジグソー法など協働学習を活用することで、生徒自らがザンビアから見えてくる日本の課題や解決策について考察することをねらいとしたい。それは現行の学習指導要領が目標として示す「国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」ことに通じるものであり、本単元における最終目標は、地球規模の視野で考え、地域視点で行動する(Think globally, act locally) グローカル人材の育成である。</p>		
6. 単元計画 (全3時間)				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	開発途上国への効果的な支援とはどうあるべきか？	開発途上国を支援する方法は一つではなく、複数の方法が関連し合うことで効果的な支援となることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ● ジグソー法を利用 ① 3人グループを作り、一人ずつ担当の英文を読み取る Ⓐ Donating food and water Ⓑ Providing technology Ⓒ Promoting school education ② A～Cの内容がどのように関連しているかグループで話し合う。 ③ 発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ JICA 教師海外研修 (2019/6/29～30) で行われた模擬授業教材を使用
2 本時	SDGsで考えるザンビアと日本①	ザンビアが抱える課題について理解し、その解決策について協働学習を通して生徒自ら考察する。	<p>ザンビアの課題を知ることがなぜ日本の課題解決に役に立つのか？</p> <p>(1) ザンビアの課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ① ザンビアの概要 ② 4人グループを作り、一人ずつ担当の英文を読み取る (A: 銅 B: 産業 C: 教育 D: 水問題) ③ 情報共有 ④ 補足説明 ⑤ ダイヤモンドランキング ・ ザンビアが優先すべき SDGs ⑥ 発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『新詳地理 B』 帝国書院 ・ 『新編地理資料 2019』 とうほう ・ 『データブックオブザワールド 2019 年度版～世界各国要覧と最新統計』 二宮書店 ・ JICA ザンビア事務所提供資料 ・ secondary school 教科書 (ザンビア書店で購入) ・ ユニセフ HP ・ CMMB HP
				
3	SDGsで考えるザンビアと日本②	ザンビアの課題から見えてくる日本の課題とその解決策について生徒自らが考察する。	<p>(2) ザンビアの課題から見えてくる日本の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 前回の振り返り ② ザンビアの SDGs 達成状況 ③ 日本の SDGs 達成状況 ④ 日本が抱える課題 ⑤ ザンビアの課題を知ることがなぜ日本の課題解決に役に立つのか？ ⑥ 発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『未来の授業～私たちの SDGs 探求 BOOK』 佐藤真久 監修 宣伝会議

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (15分)	○ What kind of country is Zambia? ① ザンビアの面積・人口・言語 ② 1964年東京オリンピック閉祭式の日独立 ③ 銅の国際価格上昇と発展するザンビア ④ 広がる格差	・パワーポイントを使用し、ザンビアの概要について説明。 ・教科書等の記載に触れながら説明。	・パワーポイント ・『新詳地理 B』 帝国書院 ・『新編地理資料 2019』 とうほう ・『データブックオブザワールド 2019 年度版 ～世界各国要覧と最新統計』二宮書店
展開① (15分)	○ EXPERT ・4つの英文を担当者ごとに読み取り、概要をまとめる (A:銅 B:産業 C:教育 D:水問題)	・辞書を使用してもよいと伝える。 ・英文を読み、概要をワークシートにまとめる。	・ワークシート 4つの英文 A: P42-45 『Atlas for Zambia』 B: P109-110
展開② (5分)	○ JIGSAW ・A～Dの英文を読んだ4人でグループを作り、それぞれが持つ情報を共有する。	・グループごとに情報を共有し、ワークシートに記入する。	『Excel & Advance Geography Lerner's Book Grade 12』 C:ユニセフ HP https://www.unicef.org/zambia/education
展開③ (5分)	○ 補足説明 A:「モノカルチャー」と問題点中国への依存 B:「産業革命」と工業化、社会の発展 「輸入代替型工業」 インフラの未整備と不安定な電力供給 C: 教師研修で訪れた学校 D: ザンビアのトイレと浅井戸	・パワーポイントを使用、A～Dの英文に関する補足説明。 ・教科書等に記載された地理用語を示し、英文の補足説明。	D:CMMB HP https://cmmb.org/chole-ra-outbreak-in-lusaka-zambia/ ※ A B は ザンビアの secondary school 教科書
展開④ (10分)	○ ダイヤモンドランキング ・ザンビアが優先すべき目標 (ゴール) のうち、上位 1～6 位を理由を明確にしながらグループごとに話し合う。 	・パワーポイントを使用、ダイヤモンドランキングの説明。 ・理由を明確にすること。 ・グループごとにワークシートにシールを貼る。	・SDGs シール 
まとめ (5分)	○ 発表 ・各グループのダイヤモンドランキングとその理由について発表する。 	・数人の生徒に発表させる。 ・気づいたことをワークシートに記入させる。	

<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に意欲的に参加し、ザンビアの地誌について理解することができる。 ・他者との協働学習を通してザンビアが抱える諸課題について理解することができる。 ・ザンビアが解決すべき課題について論理的に考察し、自身の考えを他者に明確に伝えることができる。
<p>9. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <p>【校内】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 2年生課題研究のためのおつかいFW ② 本校図書館にてザンビア展を開催（期間：2019年8月25日～10月31日） ③ 本校1年生英語プレゼン発表会閉会式にてザンビアに関する英語プレゼン（2019年9月28日） ④ ザンビアにおける鉛汚染について研究されている北海道大学・JICA 在外研究員である中田北斗氏を本校にお招きし、ワークショップを実施（2019年11月22日）。 <p>【校外】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 長水支部教研社会科分科会（長野市と周辺地域の小中高教員による教育研究会）にてザンビア教師海外研修について報告（2019年10月5日） ② 長野県飯山高校図書館にてザンビア展を開催（2019年12月1日～2020年1月31日） ③ 長野県飯山高校にて上述の中田北斗氏によるワークショップを実施。なお、飯山高校では、事前学習として教科横断型授業を3時間行い、ワークショップではロールプレイングによるディベートなど、先進的な取り組みが行われた。（2019年11月22日） ④ SBC ラジオ「武田徹のつれづれ散歩道」にて教師海外研修について報告。（2019年12月28日）

【自己評価】

11. 苦勞した点	<p>最も苦勞した点は、ジクソー法による授業展開である。従来型のグループディスカッションでは、積極的に意見を述べる生徒がいる一方、他の生徒の話を聞くだけで終わってしまう生徒が出てしまうという問題がある。ジクソー法では、必ず一人に一つの役割が与えられているため、そうした問題を見事に解消することができる。4人がそれぞれ異なる英文を読み、それをもとにザンビアが優先すべきゴールをダイヤモンドランキングで示すという活動を取り入れたが、4つのパーツを組み合わせて一つの到達点に至るという本来のジクソー法の趣旨とはずれてしまっていたため、結局は発言力のある生徒を中心にダイヤモンドランキングがつけられるという流れになってしまった。</p>
12. 改善点	<ol style="list-style-type: none"> ① ザンビアの教科書を教材として使用するという構想から、4つの英文からザンビアが抱える課題を生徒自らが探るといった活動が、英文の読み取りに終始してしまった点。英文を扱うのであれば、英語科と教科横断型授業を展開し、もう少し丁寧に英文を読み解く必要があった。 ② シール台紙にSDGsのゴールを印刷したものをはさみで切って貼ることでダイヤモンドランキングをつくる計画であったが、台紙からシールがうまくはがせず、予想以上に時間がかかってしまった。上記の発言力のある生徒中心にグループディスカッションが行われたという点も含め、改善が必要である。 ③ グループごとのディスカッション内容の発表について。時間の都合上、すべてのグループの発表も難しく、グループの代表として発表した生徒にとっては貴重な学びの経験となるが、その他大勢にとっては聞くのみとなっている点。すべての生徒に発言の機会が取り入れられた授業展開を考える必要がある。 ④ 着地点は「日本の課題」であったが、その提示に終始してしまった点。日本が優先すべきゴールについてもダイヤモンドランキングをつくるなど、ザンビアと比較しながら解決策を深く考察することが、最も大切なことだったように思う。

13. 成果が出た点

① すべての生徒が主体的に授業に参加する目的でジクソー法を活用した。ジクソー法を経験したことがない生徒が大半であり、不安はあったが、通常の授業では見られない、意外な生徒による意外な発言など、授業者の予想をはるかに超える展開も見られた。授業終了後の休み時間もザンビアが最も優先すべきゴールは何か、真剣に議論していた生徒たちの姿が印象に残っている。

② 授業のまとめとして、「ザンビアの課題知ることがなぜ日本の課題解決につながるのか」という問いに対する答えを生徒それぞれに書かせた。生徒それぞれの個性を見ることができ、授業者の期待以上の意見を書く生徒も。少なからず一連の授業を通した生徒の変容を見ることができた。

③ 「ザンビア」という国に対する生徒のアンテナが高くなった。NHK 大河ドラマ「いだてん」の最終回でザンビアが出てきたことなどを話してくれる生徒（先生方も！）がいた。

14. 学びの軌跡
（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）

(1) 最優先で取り組むべき上位6つの目標（ゴール）を並べましょう。

(2) 理由

安全の水やトイレが整備されていないのを解決したいと、人々の暮らしや健康が保証できないと思っから。また、2番目の4「は教育と十分にかけぬが環境が整備されてくるとおのずから、ザンビアの将来が今と何らかわらぬ形にはなれない、とつくから。

(1) 最優先で取り組むべき上位6つの目標（ゴール）を並べましょう。

(2) 理由

教育を基盤に、経済の発展が促される良、優先度が高くて、水、整備ができて、安心安全な農業の行なうことができ、健康にもつながる。経済の基盤を確立することで、食料の安定、経済成長、国が豊かになることではないかと考えた。

★ザンビアの課題を知ることがなぜ日本の課題解決に役に立つのか？

2つの国を比べると互いにSDGsにおいて解決されている項目とされていない項目とがあり、共通点もあれば、相違点もいくつかある。そのことから、ザンビアでは解決されているが、日本では解決されていない課題に注目してなぜ日本では解決に至っていないのかを考えた方が良さそうだと思う。両国の良い点、悪い点を考慮することも大切だと思う。



★ザンビアの課題を知ることがなぜ日本の課題解決に役に立つのか？



「先進国から」「発展途上国から」という関係なく、国民の幸せな生活を送るために大事なのは何かの考え方が大切。ザンビアでも日本のような色々な面で発展しているが、日本人から見習うべき点(家族以外に学校や職場で働く)・(家族以外にいない)とか、日本でもっと進歩しているところがある。

★ザンビアの課題を知ることがなぜ日本の課題解決に役に立つのか？

日本とザンビアを比較すると、日本に不足しているものを見つかることが出来るから。
 私たちから見た時は十分に発展している、改善するところがあるから見て比較すると不足点を見られるから。
 世界全体が豊かになるためには、先進国が途上国を支援すること。世界経済、国内経済が発展すると思うから。



15. 授業者による自由記述

ザンビアでの教師海外研修によって、最も変化したものは自分自身である。東京、千葉、埼玉、新潟から参加された先生方のなかで、唯一長野出身だった。それは、ザンビアで日本人というより、長野県民ということ強く意識させた。ザンビアが内陸国であるように、海なし県長野。ザンビアの課題は長野の課題と共通していることも少なくないはずだ。(そこを授業でより深掘りしたかった) 私にとっては「グローバル」な旅となったように思う。数々の貴重な経験をさせていただいた。参加者の先生方をはじめ、多くの出会いがあった。
 ザンビアの孤児院に届けるため、職員会議で古着を募ったところ、予想以上の古着が集まった。勤務校では、多くの方々にザンビア行きを支えていただいた。帰国後には、授業実践だけでなく、長水支部教研社会科分科会にて報告の機会をいただいた。ザンビアを拠点に活動されている研究者中田北斗氏を長野高校にお招きし、意義深いワークショップを行っていただくことができ、前任校である飯山高校では3時間の教科横断型事前学習に加えて、ロールプレイなど先進的な取り組みをしていただいた。そして、まさかのラジオ出演…。教師海外研修は、まさに私自身の世界を広げ、変容へと導くものであったといえる。まずは、ザンビアと教師海外研修に関わるすべての方々に心からの感謝を込めて。

参考資料：

- ・『新詳地理 B』 帝国書院 ・『新編地理資料 2019』 とうほう
- ・『データブックオブザワールド 2019 年度版～世界各国要覧と最新統計』 二宮書店
- ・『未来の授業～私たちのSDGs探求 BOOK』 佐藤真久監修 宣伝会議 ・JICA ザンビア提供資料
- ・ザンビア教科書『Atlas for Zambia』『Excel & Advance Geography Lerner's Book Grade 12』
- ・ユニセフ HP <https://www.unicef.org/zambia/education>
- ・CMMB HP <https://cmmb.org/cholera-outbreak-in-lusaka-zambia/>